

千葉市感染症発生動向調査情報

2018年 第51週 (12/17-12/23) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		51週	50週	49週	48週
上段: 患者数 下段: 定点当たりの患者数	小児科	17	18	18	18
	眼科	5	5	5	5
	インフルエンザ*	26	28	28	28
	基幹定点	1	1	1	1

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定点	感 染 症 名	注意報	千 葉 市				千葉県
			12/17-12/23	12/10-12/16	12/3-12/9	11/26-12/2	12/10-12/16
			51週	50週	49週	48週	50週
小児科	RSウイルス感染症		2 0.12	2 0.11	0 0.00	0 0.00	27 0.20
	咽頭結膜熱		2 0.12	2 0.11	2 0.11	0 0.00	86 0.64
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	○	64 3.76	52 2.89	53 2.94	53 2.94	481 3.56
	感染性胃腸炎	○	208 12.24	204 11.33	171 9.50	136 7.56	1,249 9.25
	水痘		9 0.53	10 0.56	9 0.50	4 0.22	69 0.51
	手足口病		8 0.47	6 0.33	5 0.28	7 0.39	102 0.76
	伝染性紅斑		13 0.76	14 0.78	23 1.28	24 1.33	137 1.01
	突発性発しん		5 0.29	4 0.22	6 0.33	5 0.28	41 0.30
	ヘルパンギーナ		0 0.00	1 0.06	1 0.06	0 0.00	8 0.06
	流行性耳下腺炎		1 0.06	4 0.22	1 0.06	1 0.06	11 0.08
	インフル インフルエンザ(高病原性鳥インフル エンザを除く)	◎★	276 10.62	152 5.43	50 1.79	7 0.25	813 3.78
眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	流行性角結膜炎		2 0.40	0 0.00	2 0.40	3 0.60	25 0.71
基幹 定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	2 0.22
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.11
	マイコプラズマ肺炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 1.00	3 0.33
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(14件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	50歳代	IGRA検査	腸管出血性大腸菌感染症	男性	10歳未満	病原体の分離・同定 及びベロ毒素の確認
結核	男性	70歳代	病原体の検出等	百日咳	男性	10歳未満	病原体遺伝子の検出
結核	男性	80歳代	病原体等の検出	百日咳	男性	10歳代	病原体遺伝子の検出
結核	女性	20歳代	IGRA検査等	百日咳	女性	10歳代	抗体の検出
結核	女性	30歳代	IGRA検査	風しん	男性	40歳代	病原体遺伝子の検出
結核	女性	40歳代	IGRA検査	風しん	男性	40歳代	病原体遺伝子の検出等
結核	女性	50歳代	IGRA検査	風しん	男性	50歳代	病原体遺伝子の検出
-	-	-	-	風しん	男性	50歳代	病原体遺伝子の検出

*第51週は、結核7件(175)、腸管出血性大腸菌感染症1件(23)、百日咳3件(221)、風しん3件(95)の報告があった。

※ ()内は2018年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第51週のコメント

＜A群溶血性レンサ球菌咽頭炎＞前週から増加し3.76となった。過去10年の同時期と比べると最多。

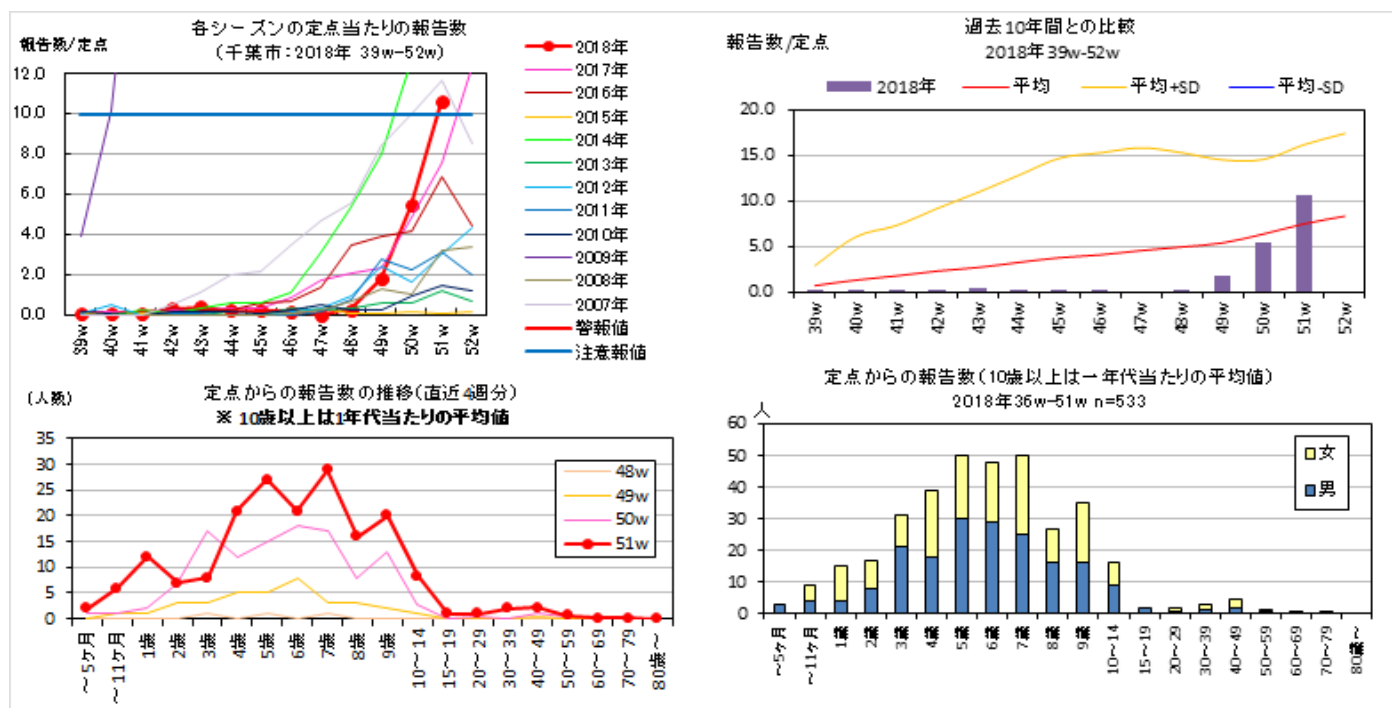
＜感染性胃腸炎＞前週から増加し12.24となった。過去10年の同時期と比べるとほぼ平年並みだが、若葉区で流行発生警報開始基準値を大幅に上回っている。

＜インフルエンザ＞前週より更に増加し10.62となり、流行発生注意報基準値を上回った。過去10年の同時期と比べると多め。

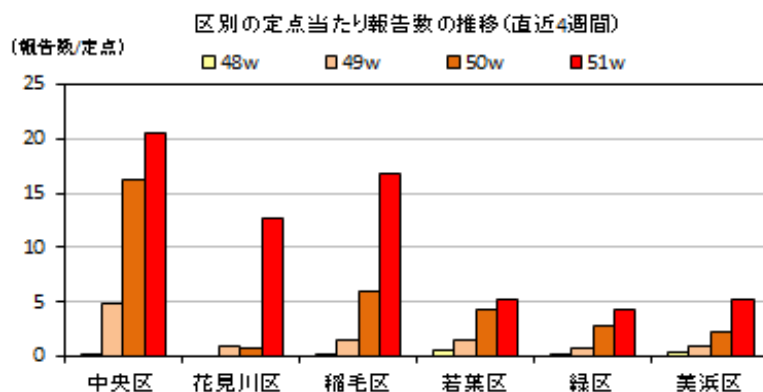
トピック

＜インフルエンザ＞

全国レベルの第50週は、過去10年の同時期と比べると少なめとなっています。都道府県別では愛知県、北海道、香川県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べるとやや多めとなっています。千葉市の第51週は前週より増加し10.62となり、流行発生注意報基準値(10.0/定点)を上回りました。過去10年の同時期と比べると多めとなっています。区別の発生状況は中央区(20.6/定点)で流行発生注意報基準値を上回り最多で、同区の10歳代前半で最も多く、一年代あたりでは5歳及び7歳で最も多く発生報告がありました。その他、花見川区及び稲毛区で流行発生注意報基準値を上回っています。今シーズンである2018年第36週から第51週の累積報告数は533件で、性別では男性が51.6%(275名)、女性が48.4%(258名)で、年齢階級別では5歳及び7歳(共に9.4%:50名)、6歳(9.0%:48名)の順で多くなっており、20歳未満は全体の77.9%、10歳未満は全体の60.8%となっています。

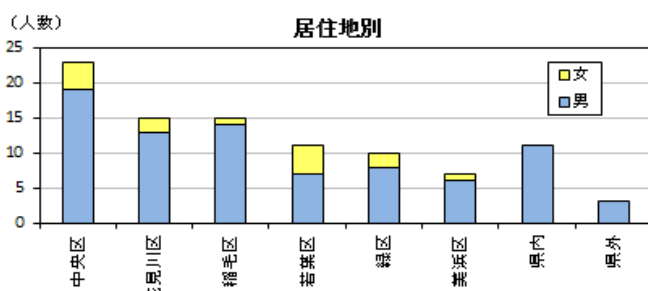
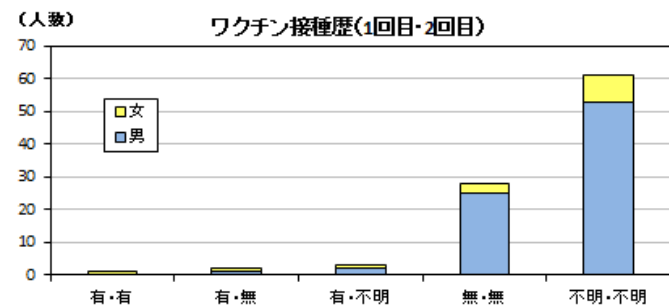
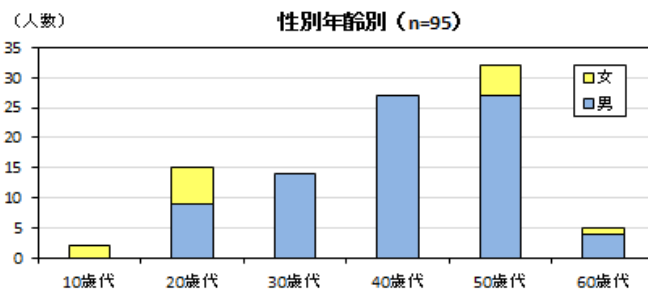
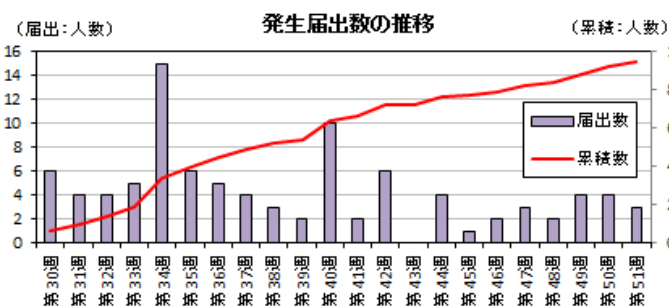


第51週	市全体	中央区	花見川区	稲毛区	若葉区	緑区	美浜区
基準値超過	注意報	注意報	注意報	注意報	-	-	-
過去10年の同時期との比較	多め	多い	最多	非常に多い	少なめ	少なめ	やや多め
昨年の同時期との比較	多い	多い	多い	多い	少ない	少ない	多い



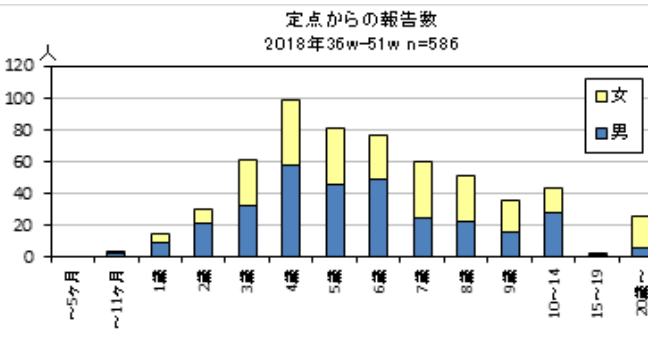
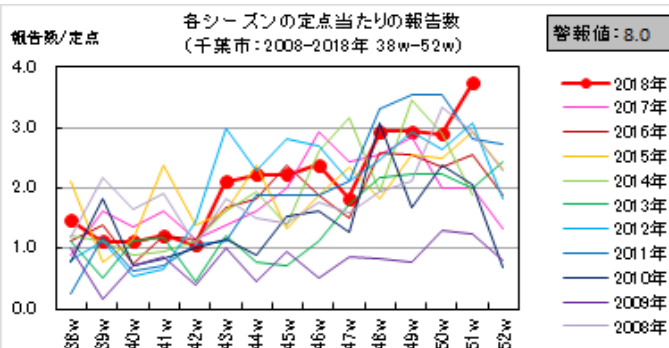
<風しん>

全国レベルの第50週の累積報告数は2713件で、昨年の同時期と比べると31倍を上回りました。都道府県別では東京都、神奈川県、千葉県順で多く報告されており、関東地域で多く発生しています。千葉市の第51週は3件の発生報告があり、2018年の累計は95件となっています。性別は男性が85.3% (81名)、女性が14.7% (14名)で、年齢階級別は、50歳代 (33.7%:32名)、40歳代 (28.4%:27名)、20歳代 (15.8%:15名)の順で多く、40歳代～50歳代の男性が中心となっています。居住地別では、中央区 (24.2%:23名)、花見川区及び稲毛区 (共に15.8%:15名)、の順に多くなっています。患者におけるワクチン接種歴は、無し又は不明が9割を超えています。



<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎>

全国レベルの第50週は、過去10年の同時期と比べると多くなっています。都道府県別では、北海道、新潟県、福岡県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べると多めとなっています。千葉市の第51週は前週から増加し3.76となり、過去10年の同時期と比べると最多となりました。区別の発生状況は緑区 (7.0/定点)で最多で、同区の4歳、7歳及び8歳で比較的多く発生報告がありました。今シーズンである2018年第36週から第51週の累積報告数は586件で、性別では男性が53.9% (316名)、女性が46.1% (270名)で、年齢階級別では4歳 (16.9%:99名)、5歳 (13.8%:81名)、6歳 (13.1%:77名)の順で多くなっています。



<感染性胃腸炎>

全国レベルの第50週は、過去10年の同時期と比べると少なめとなっています。都道府県別では、福井県、大分県、香川県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルとほぼ平均レベルとなっています。千葉市の第51週は前週から増加し12.24となりました。過去10年の同時期と比べるとほぼ例年並みとなっていますが、区別の発生状況は若葉区 (32.0/定点)で突出して多く、流行発生警報開始基準値 (20.0/定点)を大幅に上回り最多で、同区の4歳で最も多く発生報告がありました。今シーズンである2018年第36週から第51週の累積報告数は1568件で、性別では男性が56.6% (888名)、女性が43.4% (680名)で、年齢階級別では1歳 (17.3%:271名)、2歳 (13.2%:207名)、6～11か月 (10.2%:160名)の順で多くなっています。

